環境対策特別委員会（第11回）

日 時 平成24年7月12日（木）
午前10時00分 ~
場 所 第3委員会室

1 開 議

2 事 件

アユモドキの保全保護について

3 その他

次回の日程、内容について

地元のアイモドキ保全活動

1. アイモトキンの愛称
2. 絶滅の危機を招いた要因
3. なぜ曾我谷川だけに生存できたか
4. 地元住民としてできることは何か
5. 救出作戦に参加、ファブリダム（堰上げ）、中干し、サイホン、
落水時
6. 産卵、稚魚、生育環境の保全に参加
7. 密漁防止、警察との連携、禁漁区設定
8. 外来魚駆除作戦に参加、築、オオクチバス、ブルーギル
9. 今後の取り組み、産卵、生育場所の拡大施策
10. 保津町すいたん農園プランに昔の原風景復活計画
11. あゆもどきの里、保津のひかり、登録商標認証
12. 保津川かわまちづくりの推進による生物共生のまちづくり

保津地域におけるアユモドキ保全活動の経過について

- H17 保津地域アユモドキ連絡協議会準備会設置
(背景)
京都大学大学院の岩田教授が平成 15 年 8 月からアユモドキの生息調査を開始され、平成 16 年に種の保存法による絶滅危惧種に指定された
- H18 保津地域アユモドキ連絡協議会発足
(構成員)
京都府、亀岡市、亀岡警察署、研究者、NPO、地元
(地元=自治会、農事組合法人ほづ、土地改良区、漁協、遊船)
(活動内容)
アユモドキの生息環境の維持、調査研究、密漁防止パト等
- H20.6 外来魚による影響
(状況)
アユモドキの生息地にオオクチバスの稚魚が大量に侵入したため、保津町自治会、NPO、行政等が一体となって駆除を実施したが、オオクチバスに捕食され、アユモドキやその他の在来魚種が激減した。
(外来魚駆除の結果)
やな漁で約 500 匹のオオクチバス捕獲をはじめ、上流の池干しや生息河川において外来魚駆除を行った結果、約 5000 匹のオオクチバスを駆除した。
(アユモドキ推定個体数)
平成 19 年 9 月 約 800 匹 → 平成 20 年 9 月 約 220 匹
- H21.3 亀岡市のアユモドキを保全するための提言
(内容)
学識経験者による「亀岡市アユモドキ生息環境保全回復研究会」が設置され、提言書が亀岡市長に提出された。
- H21.4 亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会の発足
(趣旨)
アユモドキの保全回復を図るとともに生息域拡大に向け、環境省の生物多様性保全推進支援事業の事業採択を受けて活動するために、協議会を設置した。
(構成団体)
保津町自治会、土地改良区、農事組合法人ほづ、保津川漁協、保津川遊船、有識者（西口議員、岩田教授、大西准教授）、NPO、京都府、亀岡警察、亀岡市、亀岡市教育委員会
(主な活動)
6 月 ダム起立に伴う救出活動 → 44 匹救出

- 7月 中干し等に伴う救出活動 → 213 匹救出
- 9月 落水に伴う救出活動 → 101 匹救出
落水に伴うやな漁 → オオクチバス 1 匹、在来魚数千匹捕獲
- 11月 アユモドキ産卵場所での草刈、樹木の伐採等を保津町自治会と市
で実施
- 4月～11月 保津町自治会による密漁防止パトロールの実施
(アユモドキ推定個体数)
平成 20 年 9 月 約 220 匹 → 平成 21 年 9 月 約 2,340 匹

H22.4～ 平成 22 年度亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会での主な活動

- 6月 ダム起立に伴う救出活動 → 268 匹救出
- 7月 中干し等に伴う救出活動 → 1 匹救出
- 9月 落水に伴う救出活動 → 6 匹救出
落水に伴うやな漁 → オオクチバス 10 匹、在来魚数千匹捕獲
- 11月 アユモドキ産卵場所での草刈、樹木の伐採等を保津町自治会と市
で実施
- 4月～11月 保津町自治会による密漁防止パトロールの実施
(アユモドキ推定個体数)
平成 21 年 9 月 約 2,340 匹 → 平成 22 年 9 月 約 1,527 匹

H23.4～ 平成 23 年度亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会での主な活動

- 6月 ダム起立に伴う救出活動 → 149 匹救出
- 7月 中干し等に伴う救出活動 → 46 匹救出
- 9月 落水に伴う救出活動 → 16 匹救出
落水に伴うやな漁 → オオクチバス 2 匹、ブルーギル 6 匹
- 11月 アユモドキ産卵場所での草刈、樹木の伐採等を保津町自治会と市
で実施
- 4月～11月 保津町自治会による密漁防止パトロールの実施
(アユモドキ推定個体数)
平成 22 年 9 月 約 1,527 匹 → 平成 23 年 9 月 約 1,094 匹